

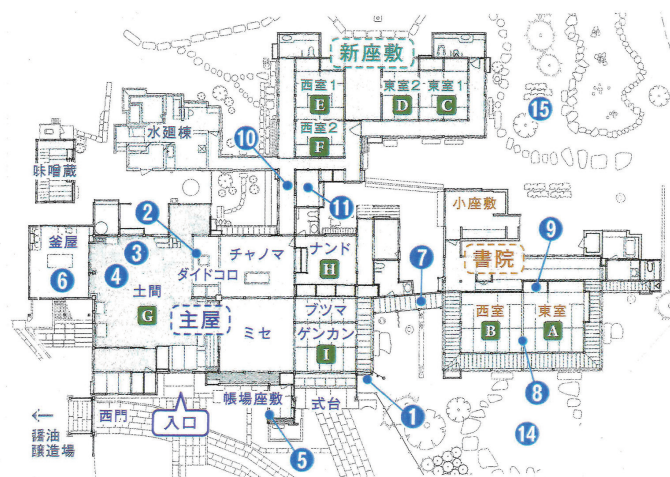
古民家探訪 旧吉田家住宅



文・写真
成田支部
橋本 修一

◆ 旧吉田家住宅について

吉田家は農業を営みながら代々名主を務め、さらに穀物商などの在郷商人として成長しました。江戸期には醤油醸造にも進出し文政9年(1826)からは、幕府の軍用馬を放牧する小金牧の管理にあたる牧士としての地位が与えられました。現在の旧吉田家住宅は、敷地面積約6,518坪という広大な土地に建築面積約330坪を要しています。江戸末期から明治初期にかけて造られた一連の建築群が、庭園や屋敷林と共に良好な状態で残されています。今回は、このような旧吉田家住宅を見学していきたいと思ひます。なお旧宅地・建築物と前面の芝地は、平成16年に柏市に遺贈され、修理工事の後、平成21年に歴史公園として開園しました。平成22年には、主屋・書院・新座敷・長屋門・向蔵・新蔵・道具蔵・西門が国の重要文化財に指定され、庭園・屋敷林などは平成24年に国登録記念物(名勝)に登録されました。



▲ 旧吉田家概略図(歴史公園パンフレットより)
[本図の番号と文章、写真の番号が対応しています]

◆ 長屋門から主屋へ

前面の広い芝地を通り抜けると、まず巨大な長屋門が目飛び込んできます。中でも門扉は分厚い樺の一枚板で造られています。この門をくぐり、石畳を歩いて行くと、見えてくる建物が、およそ桁行20mにもおよぶ茅葺き屋根の主屋です。その外観は、右手に式台を設けた武家屋敷風の玄関があり、まん中には、突出した帳場座敷が向かってきます。さらにその左手には豪農風の土間が設けられています。ここで先ほど紹介したように、「武家」「商人」「豪農」というそれぞれの役割を持たせた建物の顔が見えてくるのです。



◆ 主屋の紹介

嘉永7年(1854)に建築されました。

屋根の形態は、寄棟・茅葺きの大規模な建物で西側に土間や釜屋を設け、中央に帳場や座敷を構えています。東側には、主玄関が有り渡り廊下より書院(客間)へと続きます。主玄関の奥には、仏間が有り更にその裏側には、納戸(普段主人の執務室)へと繋がります。

- ① 重厚な茅葺き屋根の軒先は、幾重にも重なっており(約1m)長い年月を感じられます。
- ② 囲炉裏の有る台所廻りです。ただし痕跡を元に近年復元されたものということです。また、奥の座敷の畳は、丈夫な琉球畳が、敷き込まれていました。



▲ 主玄関



▲ 帳場座敷



▲ 土間入り口



▲ ①茅葺き軒先



▲ ②台所



▲ 店の座敷



▲ ③土間